



ドメスティック・バイオレンス (DV) を正しく理解する

ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、「夫婦や恋人などの親しい人間関係の中で起こる暴力」のことです。

暴力とは、殴る、蹴るなどの身体に損傷を与える行為だけでなく、大声でどなる、無視をする、大切な物を壊すなどの**精神的暴力**、生活費を渡さない、ギャンブルなどの**浪費をする経済的暴力**、更には、性行為を強要したり、避妊に協力しないなどの**性的暴力**など様々な形があります。

DVはこれらの暴力が複雑に重なり、繰り返し起きる暴力であり、犯罪行為も含む重大な人権侵害です。

DVは支配とコントロール

DVは親しい人間関係の中で起こるため、周りの人からは分かりにくく、当事者同士であつてもその関係が当たり前になつていゝこともあります。

左の表の項目にいくつか該当があればDV関係の可能性がります。

これらの内容から、DVはパートナーからの執拗な支配とコントロールであることがわかります。

DVのサイクル

① 暴力の爆発期

感情のコントロールができなくなり、激しい怒りと暴力が爆発する。

② ハネムーン期

優しくなり、暴力を絶対起こさないと謝罪する。

③ 緊張の蓄積期

機嫌が悪くなり、緊張が高まり軽い暴力が始まる。

① 暴力の爆発期

再びサイクルとして繰り返されます。

DVチェックリスト
<input type="checkbox"/> 相手の言うことは絶対だ
<input type="checkbox"/> 自分の希望を相手に伝えるのは、とてもエネルギーがいる
<input type="checkbox"/> 相手が帰って来ると緊張する
<input type="checkbox"/> 相手を恐れている
<input type="checkbox"/> 相手がいる前で電話をしたくない
<input type="checkbox"/> 相手を待たせることはできないと感じている
<input type="checkbox"/> 自分がどう感じるかよりも、相手が怒らないかが基準になっている
<input type="checkbox"/> 自分の好みよりも相手の好みを最優先する
<input type="checkbox"/> 相手の言動に意見できないと感じている
<input type="checkbox"/> たとえ間違っていると思つても、相手に同調しなくてはならない
<input type="checkbox"/> 相手に自分の本音は絶対言えない
<input type="checkbox"/> 相手が怒りだすと、何とかなだめようとしてしまう
<input type="checkbox"/> 相手の機嫌が良い状態であるためには、どんなことでもすると思う
<input type="checkbox"/> どんなに楽しんでいても、相手の機嫌が悪くなるともう楽しめない
<input type="checkbox"/> 相手からのセックスの要求は断れないと感じている
<input type="checkbox"/> 自分が欲しい物でも、相手が良い顔をしなければ買えない
<input type="checkbox"/> 子どもが相手の気に入らないことをすると、とてもあせる
<input type="checkbox"/> 相手についてのウソがばれるのが怖くてしょうがない

NPO 法人レジリエンス資料を一部改変して引用

DV専門の相談員にご相談ください

人権センターでは、専門の生活相談員を配置し、DV等の相談・支援事業を強化しています。話を聴いてもらいたい時やどのような支援が受けられるのか知りたい時など、ご相談ください。あなたの勇気を応援します。

相談日時 月～金曜日の8時30分～17時15分（祝日・年末年始を除く。）

問い合わせ 人権センター ☎ 22-7736

加害者の中には暴力を振るった後に優しく振る舞い、ケガをした被害者の手当てをしたり、謝罪して贈り物をしたりする人もいます。このような加害者の態度が「暴力を振るわなくなるのではないか」という期待を被害者に抱かせ、逃げられない原因の一つになっていると言われています。

このサイクルから脱出するためには、「このままでは良くない」と「気づく」ことから始まります。気づく時期は人それぞれですが、「気づき」はDVを断ち切るための第一歩と言えます。